talk! talk! talk! タレント・水野裕子さん

タレント

水野裕子さん

アスリート系タレントとしてお茶の間で人気を得ているタレント・水野裕子さん。キャスターやリポーターとして幅広く活躍している。華奢な容姿でありながらも身体能力に優れ、〝芸能界No.1女子アスリート〞の異名を持つほどだ。カメラを毎日持ち歩き、じっくりと被写体に向き合いながら撮影を楽しむという彼女に、写真へのこだわりや目標をお話しいただいた。

プロフィール

1982年、愛知県生まれ。1998年にソニー乾電池の「FACE ON!キャンペーン」のオーディションに合格したことがきっかけでユニットsmAshのメンバーとしてCDデビューし、芸能活動を開始。以降、キャスターやリポーター、MCアシスタントなどタレントとして幅広く活躍している。また、身体能力の高さから〝アスリート系タレント〞としての知名度も高い。
主な出演テレビ番組として、「ろみひー」（NTV）「アッコにおまかせ！」「王様のブランチ」（TBS）「世界バリバリバリュー」（TBS系）「THEフィッシング」（テレビ東京系）「クロノス」（フジテレビ）など多数。「筋肉番付」（TBS）の企画で「マッスルミュージカル」に出演、「サイボーグ魂」（TBS）の企画で総合格闘技に挑戦した経歴も持つ。
現在、CX「すぽると！」火曜SPORT（FEATURING SPORT）コーナーキャスターを務めている。

Beginning 出会い

写真に詩を添えて楽しんでいたあの頃

いつ頃から写真に興味をお持ちだったのですか？

小学校5年生の頃に、お母さんが昔使っていたポケットインスタマチックカメラをもらって、それから写真を撮るようになりました。フォーマットを標準とパノラマに切り替えられることが面白くて、おもちゃ感覚でカメラを楽しんでいましたね。

何を撮っていたか憶えていらっしゃいますか？

その頃は詩人の銀色夏生さんがすごく好きだったんですね。銀色夏生さんは写真も撮られる方で、詩集には写真もたくさん掲載されているんです。当時の私は、空の写真がたくさん収められた詩集に触発され、空の写真ばかり撮っていましたね。

詩を書かれたりもしたのですか？

恥ずかしいんですが、正直に言うと書いてました（笑）。このあいだ写真を整理していたら、大量の空の写真と一緒に自作の詩が出てきたんです！ 初めに空ばかり撮った写真が100枚くらいバサッと出てきて、それらと一緒にルーズリーフがあって……。読んでみたらその頃書いた詩だったんです。恥ずかしくなってしまうようなことがたくさん書いてあったんですが、捨てられず封印だけしておきました。

いい思い出ですね。その後、中高生の頃はどんなふうに写真を楽しまれていたのですか？

レンズ付きフィルムを常に鞄の中に入れて、特にイベントがなくても日常的に写真を撮っていました。学生時代の写真は今もちゃんと残っていて、膨大な量なんです。何を撮ったのかわからないようなものや、ほとんど同じ構図で、写っているメンバーも同じという写真ばかりなんですけどね。高校では写真部だったんですが、実際のところは写真部という名の帰宅部でした。部活に行かなさ過ぎて、顧問の先生から「水野という子に退部届けを出すように言っといてくれ」と言われたんです。先生は私の顔すら知らなかったんです（笑）！

相当な幽霊部員だったのですね（笑）。

今思うと真面目に写真部の活動をしておけばよかったなと思っています。ちゃんと暗室もあって、自分で現像できる環境が整っていたので、惜しいことをしたなという感じです。

水野さんは高校生の頃からお仕事をされていて、撮られる側としての経験もたくさんあると思うのですが、その経験が撮る側に立つときに役立ったことはありますか？

そうですね。お仕事で撮られる側に立つときは、よく「カメラマンを彼氏だと思いなさい」と言われるんです。たとえば芸能事務所に送るオーディション写真を撮るときは彼氏に撮ってもらうのが一番良くて、グラビア撮影をするときはカメラのレンズを彼氏だと思ってポーズをとるのが良いんですよ。そうすると女の子は好きな人に見せる一番いい顔で写真に写ることができて、自然といい写真に仕上がるんです。

撮る側と撮られる側の関係性は本当に大切なんですね。

そうなんです。撮られる側がいかにリラックスできるかということが重要ですね。だから私が人を撮るときは、撮られやすい状況を作ってあげようと心がけます。でもそういったリラックスできるような空気を作るのは難しいんですよね……。フォトグラファーさんはすごいなと思っています。

なるほど。場の空気を作るのも撮る側の仕事ということなんですね。

Pleasure 楽しみ

考え抜いて撮る 撮影スタイル

最近はどういったカメラでどんなふうに撮影されることが多いのですか？

デジタルのコンパクトカメラを毎日持ち歩いていて、出かけた先で撮影をしています。もともと持っていたカメラが壊れてしまって、写真を撮らない時期があったんですが、写真好きの友人の作品展を見に行ったときに「やっぱりカメラないとダメだ！」と思って、最近新しいカメラを買ったんです！

特によく撮る被写体はありますか？

空や植物など自然を撮ることが多いですね。人物も撮るんですが、今回ウェブギャラリーに掲載させていただく写真を選ぶ際、今までに自分が撮った写真をいろいろ見ていて、やはり風景写真の方が格段に思い入れが強いなと気づいたんです。人を撮ったものは普通のポートレイトになってしまっていて、いつどこで撮った写真なのかも忘れてしまっているんですが（笑）、逆に風景写真はいつどこで、どんなシチュエーションで撮ったのかを鮮明に覚えているんです。

人物を撮ったときの方が思い出があるような気がしますが、水野さんは逆なのですね。

そうなんです。友人にも普通は風景写真の方が覚えていないんじゃない？ と言われるんですが、私は違うんですよね。多分、それは人物を撮るときより、風景を撮るときの方がこだわって撮っているからだと思うんです。

どんなこだわりをお持ちですか？

構図や色合いなどいろいろ考えながら撮るようにしています。特に奥行感が出るよう心がけているんです。まず撮りたいものを見つけたら、被写体がよく見える位置、角度を探します。ローアングルで撮りたいと思ったら這いつくばってでも撮りますね。よくマネージャーさんに「何しているの！？」と驚かれます（笑）。あと一番理想的な色が出るようにホワイトバランスを調整して撮っています。

直感的に撮るというよりは、じっくりと時間をかけて撮影されるのですね。

はい。最近では必要であればカメラのモード機能、スポーツモードや夜景モード、チャイルドモードなどを活用して撮影しています。モードによってそれぞれシャッタースピードやホワイトバランスが設定されているので、一通りすべてのモードを試してみて、その特徴を自分の中でつかんでおくんです。そうすることで、応用も利かせられるようになります。植物を撮る場合にあえてチャイルドモードを使って撮るといい感じになるんだ！ などと私なりの発見もあって、いろいろな使い方ができるようになるんです。

カメラの機能をうまく使いこなせないという方も多いと思うんですが、水野さんは駆使されていますね。

私は機械が好きなので、カメラの操作も楽しめるんだと思います。自分のイメージ通りに写真を撮るのはなかなか難しくて、撮った写真を見て、もっときれいだったのになと思うことってありますよね。記憶や想像は自分の中で誇張されるので、余計写真を見たときとのギャップが大きくなると思うんです。私もたくさんがっかりした経験があるので、今ではカメラの持っている機能をフル稼働させて、自分が被写体に対して素敵だなと思った部分を強調して撮るようにしています。紅葉の赤がきれいだったら、色味を調整して赤を出したり。テーマを大げさに、強調して撮るようにした方が、仕上がったときにイメージとぴったり合うんです。

それだけ考えて撮っているからこそ、写真への思い入れが強くなるんですね。

きっとそうですね。人物を撮るのは苦手意識があるからか、こだわって撮ることはしないんです。それだけ風景写真と記憶や思いに差ができるんだと思います。

Photo's 作品紹介

Future これから

一眼レフカメラを買って 蛍とスポーツを撮りたい！

小学生の頃から今まで写真を楽しんでこられたと思うのですが、続けてこられた理由を教えていただけますか？

写真はいい意味で自己満足できるんです。いい写真が撮れたときに見返して「ニヤニヤ」するのが好きなんですよ（笑）。何かに感動して、感覚的に撮るというよりは、イメージ通りに撮れるよう試行錯誤して、撮れた写真に納得して満足感を得たいという感じなんです。子供の頃からしょっちゅう撮影をしていて、自分の中に生まれる「ああ撮りたい」「こう撮りたい」という気持ちを満たすために撮り続けています。

写真撮影という行為が水野さんを満たしてくれるのですね。写真の腕は昔に比べて成長されていますか？

成長していると思います！ フィルムからデジタルになり撮ったその場で見返せて、思いどおりに撮れていない場合はすぐに調整できるので、かなりその点で助けられています。だから私の腕が上がったというよりはデジタルカメラのおかげですね（笑）。

被写体と向き合っているときにより試行錯誤できるようになったのですね。

はい。ただ、撮影に一生懸命になり過ぎると、レンズを通した目線でしか見れていないときがあるんです。すごく集中してしまい、ひとつの見方でしか見えなくなる。そういうときは冷静になって、一度カメラをのぞかずに自分の目で被写体を見るようにしています。撮影に夢中になり過ぎてしまい、ハッと我に返ったときにあまりの自分の必死さにひいてしまうこともよくあるんです（笑）。

まわりが見えないくらい無我夢中になってしまうのですね。水野さんにとって写真の魅力とは何ですか？

私の中で唯一の創作活動であるという点ですね。私はあまり美的センスがなくて、絵を描いたりするのがとても苦手なんです。自分で何かを作り出すよりも、あるものを切り取って自分なりにアレンジする方が合っているんですよね。ほかに自己表現の手段がない中で、写真は唯一自分の中の感覚を発せられるものなんです。

これから写真を撮っていく上で挑戦したいことってありますか？

一眼レフカメラを買おうと思っています。今以上にさまざまな調整ができますし、やはり一眼レフカメラのシャッター音には憧れますね。あと、今一番撮りたいものが蛍なんです。毎年蛍を見に行っていて、毎回撮影にはチャレンジしているのですが、きちんと撮れたためしがないんです。すごく難しい被写体ではあると思うんですが、何とかきれいに撮れるようになりたいですね。

確かに蛍は難しそうですね。水野さんはスポーツもお好きだと思うのですが、スポーツ写真に挑戦したいという気持ちは？

スポーツは撮りたいとずっと思っていますね！ 福山雅治さんがオリンピックの写真を撮っていらしたのを見て、すごくかっこいいなと思ったし、うらやましかったんです。普段の私の写真は静物の空気感を出した写真で、動いているもののスピード感を出した写真は撮ったことがないので、是非挑戦してみたいですね。

コンテンツトップへ戻る

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社ニコン 映像事業部
株式会社ニコン イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.